様式M-2

共同利用実施報告書（研究実績報告書）

（特定機器利用）

１．共同利用コード　　　２０　　　－　　　－

２．研究課題名

３．研究代表者　所属・氏名

４．利用機器の名称と台数

５．利用期間

６．研究課題参加者の詳細と使用の概要

（研究代表者も記載し、必要に応じ行を追加してください。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 所属・職名 | 利用場所 | 使用概要 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

７．研究計画及び研究成果の概要

|  |
| --- |
|  |

８．研究実績

※所外の課題代表者は、所内担当教員に必ず実績について地震研業績DBへの登録依頼をしてください。

国際学会発表（招待講演）

（学会発表かつ招待講演の場合、講演者名、タイトル、学会名、開催地、発表年（西暦）、招待について記入してください。

記入例：K.Obara, Meaning and prospect for science of slow earthquakes, IAG-IASPEI, Kobe Japan, 2017 (invited)）

国際学会発表

（学会発表の場合、講演者名、タイトル、学会名、開催地、発表年（西暦）について記入してください。

記入例：K.Obara, Meaning and prospect for science of slow earthquakes, IAG-IASPEI, Kobe Japan, 2017 ）

論文

（下記表の項目について記載してください。）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| # | 論文情報（著者、論文タイトル、雑誌名、巻、頁、出版年、DOI） | 査読の有／無 | 出版年月 | 著者に地震研所員を含む／含まない | 謝辞の有／無 |
| 記載例 | Kazushige Obara, Aitaro Kato, Connecting slow earthquakes to huge earthquakes. Science 353, 253-257 (2016). DOI:10.1126/science.aaf1512 | 有 | 2016.7 | 含む | 無 |
| １ |  |  |  |  |  |

報告書（様式M-2）作成にあたってのお願い

・ Web申請システム（<https://erikyodo2.confit.atlas.jp/login>）にて提出してください。

・ 「６．研究課題参加者の詳細と使用の概要」については、当該共同利用の利用者全員について個別に、氏名・所属・職名・利用場所・使用概要を記入してください。必要に応じて表の行を追加してください。

・ 「８．研究実績」には、雑誌および学会講演等として公表された成果（投稿済も可）のリストを記載してください。論文、学会講演予稿などについては、可能であれば電子媒体にて下記メールアドレス宛にご提出ください（未受理のものを除く）。難しい場合は、郵送にてご提出ください。

・ 学会講演予稿の公開について、既存の公開サイトがあり、リンクが可能な場合にはリンク先を記載してください。予稿が公開されておらず、また、リンクが不可能な場合には、地震研究所Webページからの公開可否を記載してください。

【提出先】

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

|  |
| --- |
| 研究成果公表にあたってのお願い東京大学地震研究所の共同利用・共同研究により得た研究成果を発表する場合は、地震研究所より援助を受けたことを必ず記載してください。予稿集またはプロシーディングスも同様です。Acknowledgment(謝辞)に、地震研究所より援助を受けた旨を記載する場合には「ERI JURP 20XX-X-XXの共同利用コード」を必ず含めてください。（謝辞記載例：共同利用コード｢2022-M-01｣および「2022-M-02」の観測機器を使用した場合）【英文】：下のいずれか・This study was supported by ERI JURP 2009-M-01 and 2009-M-02 in Earthquake Research Institute, the University of Tokyo.・This study was funded by Earthquake Res.Inst., the University of Tokyo, Joint Research program 2022-M-01 and 2022-M-02.【和文】：本研究は東京大学地震研究所共同利用(2022-M-01, 2022-M-02)の援助をうけました。 |